

**琉球ゴールデンキングス、日本一に!**



6月9日(月)、プロバスケットボールbjリーグの琉球ゴールデンキングスの皆さんが市役所を訪れ、2013-2014シーズンの優勝報告を行いました。木村社長は「宜野湾市の勤労者体育センターで練習しており、今回の優勝は宜野湾市の協力ののおかげです」と話しました。琉球ゴールデンキングスは、レギュラーシーズンの最高勝率の記録を塗り替え、プレーオフも勝ち抜きました。

**新1年生へまちニコシールを贈る**



6月9日(月)、市社会福祉協議会(普天間朝光会長)の「まちでニコリあいさつ声かけ運動」の一環として、嘉数小学校の1年生へ「まちニコシール」が贈呈されました。まちニコ推進員の呉屋勝広さんは「元気にあいさつすることで、学校も良くなり安全な地域づくりにつながります」と話しました。この取り組みは市内9小学校で行われました。



ひとりでも多くの方へ笑顔と元気の贈り物を!!  
毎月25日は“まちニコ(25)DAY”

**フェストーネに防火優良認定通知を交付**



6月13日(金)、消防本部において健康文化村カルチャーリゾートフェストーネに対し防火優良認定通知書を交付しました。防火優良認定とは、過去3年間にわたり消防法令に違反がなく、防火上安全であることを認めるものです。フェストーネを運営する株式会社国際リゾート研究所の藤原朋子代表取締役は、「お客様に安全に使っていただくよう掛けていきます」と今後の抱負を語りました。

**こみゆにてい 見聞録**

地域のいろいろな話題を紹介します。

**空手の県代表として九州・全国へ!**



5月30日(金)、第10回県青少年空手道選手権大会で上位入賞を果たした垣花聖武さん(宜野湾小6年)、宮城笑美莉さん(はごろも小4年)、平良昊太郎さん(沖縄トリック小2年)、仲宗根琉愛さん(普天間小2年)が市役所を訪れ、九州大会および全国大会への出場報告を行いました。垣花聖武さんは「全国・九州で初めての優勝を狙いたい」と抱負を話しました。

**真志喜中女子サッカー、九州大会出場!**



6月11日(水)、第6回県中学校夏季選手権大会(女子サッカー)にて優勝した真志喜中学校女子サッカー部の皆さんが市役所を訪れました。創部5年目となる同サッカー部は、昨年10月から県大会3連勝と実績を積み重ねており、熊本県で開催される九州大会での活躍が期待されます。

**平和を願い、オオゴマダラを放蝶!**



6月18日(水)、いこいの市民パークにおいて、宜野湾口一タリークラブ(泉恵得会長)がさつき保育園の園児を招き、オオゴマダラの放蝶を行いました。慰霊の日のある6月に毎年行っており、子どもたちに自然や生命の大切さを感じてもらうことで、平和な社会を築いていきたいという願いが込められています。

**自治会加入を呼びかけ**



6月2日(月)、「自治会加入促進強化月間パレード」が行われました。出発式では、市自治会長会の伊波健会長(嘉数区)が「自治会加入率は厳しい状況にあるが工夫をこらして加入者増に努めたい」と話しました。



出発式の後、のぼりを立てた自治会の車両でパレードを行い、自治会加入を呼びかけました。

**「水道週間」が実施されました**



今年も6月1日(日)から7日(土)まで、「おいしいな だいな お水ごっこ」のスローガンを掲げ、全国一斉に「水道週間」が実施されました。

本週間は、水道の仕組み、水道水源を巡る諸状況への理解と関心を深め、公衆衛生の向上と生活環境の改善を図るための週間です。

市水道局でも市役所入口、市内各店頭等でのチラシ等を配布し、啓蒙・広報活動を実施しました。また、市内10校の小学4年生を対象に、6月3日(火)から26日(木)の間に、北谷浄水場や海水淡水化センター、倉敷ダムの施設見学を行い、水道に対する仕組みと水の大切さを学びました。

**琉球セメント(株)より寄付金贈呈**



5月30日(金)、琉球セメント株式会社(西村聡社長)から、市へ100万円の寄付金が贈呈されました。寄付金は、4月に開校したはごろも小学校の学校整備へ贈ることを希望した西村社長は「将来を担う人材の育成に役立ててほしい」と述べました。

**商工会から幼稚園へテントを寄贈**



6月9日(月)、市商工会(福里清孝会長)は、嘉数幼稚園とはごろも幼稚園へテントを寄贈しました。これは、6月10日「商工会の日」のPR事業として行われたもので、福里会長は「幼稚園にテントを贈ることで、青少年育成や地域活動に貢献したい」と話しました。

**「ママ芋スープ」から社会貢献活動へ**



5月20日(火)、株式会社沖縄ホーム(比嘉昌治社長)は、市の特産品である田芋を使用した「ママ芋スープ」の売上金の一部を沖縄ダルク(森廣樹代表)へ寄付しました。沖縄ダルクは薬物依存のリハビリ施設として活動しており、沖縄ホームの担当者は「ママ芋スープは生産終了となるが、その売り上げの一部を社会貢献活動へ活かしてもらいたい」と話しました。